市長メッセージ 128

新たな時代を切り拓く

熱海市長　齊藤　栄

まもなく平成が終わろうとしています。私にとっての平成は社会人としての30年でした。私は平成の始まる前の年、昭和63年に国の公務員として働き始めました。当時はバブル経済の絶頂期で青函トンネルや瀬戸大橋など大型公共事業が次々と完成。しかし、ほどなくバブル経済は崩壊して長い不況に突入。「失われた30年」とも言われています。

一方、私は日本は今、歴史上大きな節目を迎えていると考えています。昨年は明治維新からちょうど１５０年にあたります。日本は長い間続けてきた鎖国を解き、近代国家になることを目標に、国が一丸となって走り始めました。その後、列強に負けない国家として力を付けていきましたが、第二次世界大戦で敗れ、国中が焼け野原となり、ゼロからの再出発となりました。明治１５０年のちょうど折り返し地点、昭和20年のことです。

熱海は日本の近代化とともに発展してきた歴史があります。梅園の整備が明治19年、熱海が新婚旅行と社員旅行のメッカとなったのが昭和40年頃であり、どちらも、明治維新、終戦から約20年後です。この符号は歴史の単なる偶然ではないと私は考えています。もちろん時代を切り拓くのは今を生きる私たちですが、歴史の大きな流れと言うものも確実にあると感じるからです。平成の失われた30年を乗り越えて、新たな発展の時代をこの熱海から創りあげていきたいと強く思っています。

広報あたみ2019．2月号掲載

市長メッセージ 129

FM熱海湯河原が開局20周年に

熱海市長　齊藤　栄

FM熱海湯河原が、この4月14日で開局20周年を迎えます。そもそもこの放送局は、阪神淡路大震災の際にコミュニティFMが情報伝達の有効な手段として活躍したことから、設立の機運が高まりました。平成11年に行政と民間が出資し合う形で、㈱エフエム熱海として放送を開始。平成13年に神奈川県湯河原町も参画し、㈱エフエム熱海湯河原として広域化しました。県をまたぐローカルFMは全国でも珍しいそうです。

先日、開局20周年記念事業の第一弾として、高瀬一郎さんによる「昭和歌謡ショー」が起雲閣で開催されました。高瀬さんと言えば、地元在住の歌手としてご活躍され、全国で熱海のPRもしていただいています。当日は私も会場に伺いましたが、私にとっても懐かしい昭和の名曲で会場がひとつになりました。歌の持つ力には本当に大きなものがあると改めて感じました。

FM熱海湯河原は防災情報とともに、地元で起きているさまざまな話題や暮らしに必要な行政情報、直近の交通情報や天気予報などを音楽やトークを交えお届けしています。ぜひ、暮らしに身近な地域情報にFM放送を通じて耳を傾けていただければと思います。

地域の発展や市民の暮らしに不可欠なFM熱海湯河原を、市民地域ぐるみで応援していきましょう。ちなみに開局20周年記念事業は今後、第二弾、第三弾と続くようです。

乞うご期待！

広報あたみ2019．3月号掲載

市長メッセージ 130

新たな年度がスタートしました！

熱海市長　齊藤　栄

昨年の秋に掲げた「熱海２０３０ビジョン」の実現に向けた初年度がスタートしました。このビジョンは「回復から躍進へ」をスローガンに、熱海が今後、持続的に発展するための目標です。このため、新年度は中長期の視点で熱海にとって必要な施策を多く含んでいます。

例えば観光・経済の分野。熱海は今、Ｖ字回復した温泉観光地として全国から注目を集めるようになりましたが、このような時だからこそ、将来を見据えた「観光地経営の仕組みづくり」を進める必要があります。官民連携で観光を推進していく母体としての「熱海型ＤＭＯ」の構築や、安定的な観光財源の確保のための方策について検討を進め、実現を図っていきます。

教育・福祉の分野では、今後の熱海の更なる高齢化の進展などに対応するため、「熱海版地域包括ケアシステム」を構築します。具体的には、まず市内にモデル地区を設定し、高齢者サロンと介護予防事業との連携や、住民主体の生活支援サービスの拡充などを行っていきます。

また、観光関連産業の競争力強化や、地域コミュニティの活性化といった、これまで行政が主体となってこなかった分野についても、産業界や町内会などとしっかりとした話し合いを行い、課題を解決していこうと考えています。

５月には新たな元号がスタートします。以上の施策に積極的に取り組み、新たな時代にふさわしい一年となるよう頑張ってまいります。

広報あたみ2019．4月号掲載

市長メッセージ 131

令和の時代を迎えて

熱海市長　齊藤　栄

5月1日から新元号「令和」が始まりました。令和の出典は万葉集で、「梅の宴」で詠まれた和歌の前に置かれた漢文の序文から文字が取られたそうです。梅を市の花としている熱海市にとって、ご縁のある元号と感じています。

さて、新たな時代に向けて将来を展望する際に、これまでの平成の30年間を総括することはとても重要です。平成時代は熱海にとってどんな時代だったのか？一言で言えば、少子高齢化が大きく進展するなかで、税収は減少する半面、必要な経費が大きく増大しました。具体的には、30年で人口は23％減少しながら、高齢化率（65歳以上）は約3倍の46・7％に、市税収入はピーク時より30％も減少しているにもかかわらず、医療・介護などに必要な経費が約5倍にも膨れ上がっています。

この数字だけを見ると、今後とても暗い未来が予想されますが、この状況を打破するのが昨年秋に掲げた「熱海２０３０ビジョン」です。令和元年度は、観光に要する費用を観光のお客様から求めようとする方策の検討、住民が主体となった生活支援サービス、地域活動の担い手を育成する仕組みづくりなどから始めていきます。

人口減少社会であっても、経済の持続的発展と豊かな市民の暮らしを実現させる仕組みを、この「令和時代」のスタートとともに作ってまいります。市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

広報あたみ2019．5月号掲載

市長メッセージ 132

ジャカランダ

熱海市長　齊藤　栄

6月はジャカランダの季節です！1990年にポルトガルのカスカイス市と国際姉妹都市提携を結んだ証しに数本が植えられたのを契機に、5年前には篤志家のご支援をいただき、お宮緑地に新たに約100本が植栽されました。鮮やかな青紫のその花は、初夏の遊歩道を歩く多くの人々を魅了しています。

なぜジャカランダの整備に力を入れるのか？それはこの花木がオンリーワンの特徴を持っているからです。熱海を含む伊豆半島の代表的な花木として梅や桜が有名ですが、ジャカランダには希少価値があります。熱海市の近隣でこれだけの本数が集積しているところは他にありません。全国でみると宮崎県の日南市南郷や長崎県の小浜温泉がジャカランダの生息地として有名ですが、全国的にも珍しい花木です。

そしてジャカランダはとても「気まぐれ」です。年によって良く咲いたり、咲かなかったり。その原因がどこにあるのか、現在実験をしながら調査中です。そして、成長がとても早いのと、枝の伸びる先がかなり暴れます。とにかく思ったように育たないのです。でもそこがこの花木の魅力なのかもしれません。

ジャカランダは南米が原産、ポルトガルの首都リスボンでは、代表的な街路樹としてたくさん植えられています。異国の情景を想像しながら、ぜひこの機会に、熱海を代表する花木をお楽しみください。

広報あたみ2019．6月号掲載

市長メッセージ 133

私の健康法

熱海市長　齊藤　栄

皆さん、ご自分の健康を維持するために、何かやっていることがありますか？自分はいくつか続けていることがあります。

まず、週に1回程度「マリンスパあたみ」で行われている運動コースに通っています。有酸素運動と筋力トレーニングを組み合わせた約1時間のコースで、真冬でも汗びっしょりになり、気分転換に最適です。かれこれ10年以上通っています。また、朝は15分くらいの体操、寝る前はストレッチを欠かしません。加えて、最近はヨガの教室にも通い始めました。これだけ書くと何だか健康オタクのようですが、良い仕事をするためにも健康であることが基本ですので、無理をせず楽しみながらやっています。

運動に加えて、食べることと眠ることも重要です。自分は食べるときには、食べることに集中するようにしています。もちろんテレビはつけません。簡単に言えば味わって食べるということです。そうすることで、食べたものがしっかりと自分の血肉になる気がするのです。眠ることに関しては、枕や布団は、自分の体に合ったものを選ぶようにしています。睡眠時間は短めですが、質の良い睡眠がとれていると思います。

そして、健康診断を受け、健康管理に役立てています。人それぞれ体の状態や興味があることが違います。ぜひご自身に合った方法を見つけ、健康を維持してください。

広報あたみ2019．7月号掲載

市長メッセージ 134

伊豆湘南道路

熱海市長　齊藤　栄

「伊豆湘南道路」をご存知ですか？　伊豆湘南道路は湘南方面から熱海を経て、三島・沼津方面を結ぶ新たな道路構想です。沿線では繁忙期の激しい渋滞などが課題となっていたため、平成10年に沿線の市町などで建設促進期成同盟会を立ち上げ、熱海市長が会長となり、国や県に対する要望活動を行ってきましたが、残念ながら、これまでは大きな進展がありませんでした。しかし、ここにきて状況が変わりつつあります。その大きな要因が昨年夏の台風12号の被害です。

通常に反して東から西に向かった台風12号により、大きな被害を受けた熱海市内のビーチラインが約1カ月間に渡り通行止めとなり、街中が大渋滞となったのはご承知のとおりです。また、小田原市では国道135号で救急車が高波の影響を受け、危うく人命に関わる状況になるところでした。これにより、現状の海岸沿いの道路網の弱さとともに、改めて「伊豆湘南道路」の必要性が証明されたと考えます。

現在、沼津と下田を結ぶ「伊豆縦貫道路」の整備が着々と進んでいますが、この道路の実現も数十年来の課題でした。国や県が行う道路整備は長い年月を要しますが、地域への貢献は本当に大きなものがあります。「伊豆湘南道路」の早期の実現に向けて、昨年の台風を「前に進める好機」と捉えて、国や県に対して、働きかけをより一層強めてまいります。

広報あたみ2019．8月号掲載

市長メッセージ 135

熱海を変えた海岸整備

熱海市長　齊藤　栄

熱海の夏と言えば「海水浴」それも「一年で最もにぎわう季節」、そんなイメージを誰もが持っていると思います。しかし、「夏の熱海（中心市街地）は閑古鳥が鳴く」と言われた時代がありました。

昭和30年ごろの熱海海岸（お宮の松周辺）の写真を見ると、現在とは全く違った景色です。海岸沿いに岩のようなものが敷き詰められ、人が泳げるような砂浜は見当たりません。また、昭和50年代の写真では、消波ブロックが延々と並んでいます。どちらの時代も夏にも関わらず、目の前に見える海との接点が無かったのです。しかし、これを一変させたのが熱海サンビーチの整備でした。白い砂を千葉県君津市から取り寄せ、延長４００メートルの美しい人工海浜が平成２年にオープンしたのです。

その後、「熱海コースタル・リゾート計画」として渚親水公園が整備され、現在その第４工区が工事中です。親水公園は本来、防潮堤の役割を担っていますが、その中に半地下式の駐車場やイベントステージを持ったことは、全国でも先駆的な取り組みでした。そして今や渚親水公園は、熱海にとって多くのお客様を迎える、無くてはならない観光施設となっています。

私たちが現在当たりまえに思っている熱海サンビーチや渚親水公園の風景は、先人の長いそして多大な努力によって生まれてきたものです。このことを決して忘れてはなりません。

広報あたみ2019．9月号掲載

市長メッセージ 136

二十歳の希望

熱海市長　齊藤　栄

先日、熱海出身の二十歳になる男女とラジオ対談を行いました。二人は来年1月に行われる成人式運営スタッフの代表と副代表です。

成人式の成功に向けた思いなどについて話をしましたが、私が印象的だったのは二人の熱海に対する強い愛着です。現在大学2年生の代表は「卒業後にまだ何をするか分からないが、ぜひ熱海で活躍したい」と熱く語り、市内のスポーツ施設で働く副代表は「一度市外に出て勉強して、資格を取ったら熱海で美容関係の店を持ちたい」と夢を話していました。今後とも熱海に住み続けたいという二人の思いを、市長としてとてもうれしく感じました。

一方で、私は可能性にあふれた若者だからこそ市外へ、そして海外へ出て行って、視野を広げ、多くの他流試合を経験することでより大きく成長してほしいとも思います。そして、人生のどこかの段階で熱海に戻る、戻れなくても何らかの形で生まれ育った故郷に貢献してもらえたら、それはとても素晴らしいことです。そういう若者を増やすために、住宅や子育てといった環境整備はもちろんのこととして、そもそも「熱海に貢献したい」という気持ちをどう育んでいくかが一番の課題と思っています。

成人式は、新成人が自分の夢や希望を確認し、また生まれ育った故郷を振り返る機会です。市としても、若者が「熱海に住み、働きたい」と思える施策にさらに力を入れてまいります。

広報あたみ2019．10月号掲載

市長メッセージ 137

熱海駅ビル改築3周年

熱海市長　齊藤　栄

今から約3年前の平成28年11月25日、熱海駅ビルが全面リニューアル・オープンしました。それまでの昭和レトロを感じさせる駅ビルも魅力的でしたが、機能的で近代的な建物に変わることで、熱海のイメージが一新しました。

生まれ変わった駅ビルには、高級スーパーをはじめ、魅力的な店舗が軒を連ね、観光客のみならず地元住民などにも人気です。オープン前、近隣の商店は少なからず不安を感じていたと思いますが、結果としてお客様全体のパイが増えたことから、そのマイナスの影響は限定的と捉えています。加えて、熱海駅周辺の新たなホテルの建設や地価の上昇など、プラスの経済効果も出ています。

一方で、「熱海で元気なのは熱海駅周辺だけ」という声も聞かれます。これまで市は、熱海駅周辺に限らず、民間の投資を呼び込むための環境整備を行ってきました。例えば、お宮緑地のジャカランダ遊歩道の整備は平成26年に完成しましたが、この事業には閉鎖したホテルの跡地が景観を損ねている状況を何とか変えたいとの思いがありました。幸い、現在東海岸町の複数のホテルの建設計画が進みつつあります。

近年、スイーツの店舗をはじめ、新たな飲食店の出店も続いています。地域の活性化のため、その規模に限らず、民間投資を呼び込むことが重要です。市としてもそれを促すため、まちの魅力や価値を高める努力を続けてまいります。

広報あたみ2019．12月号掲載